

# 成田セイリユウ

滋賀県議会活動 NewsReport Vol.61 2020年春号



## 未来への責任

新型コロナウイルス感染症や気候変動による自然災害など、世界的な課題に対し、地域一人ひとりの取り組みが重要となってきております。これはSDGsにおける地域の地道な活動を世界で共有して影響を与え合うことにも通じるといえます。

誰ひとり取り残すことのない社会をつくるためには、人口減少や超高齢化など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりを企業、NPOをはじめとする団体、学校や研究機関などと連携協力を進めていく必要があります。

様々な困難にも立ち向かい、未来に笑顔あふれる社会になるように、引き続き取り組んで参ります。

プロフィール：1974年8月15日大津市生まれ

- 唐崎小、中、膳所高、龍谷大学法学部政治学科卒業
  - 同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了
  - 議会運営委員会 委員
  - 環境・農水常任委員会 委員
  - 琵琶湖対策特別委員会 委員
  - 滋賀県議会自転車議連 副会長
  - 第11回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞受賞
  - 宅地建物取引士
  - 大津市消防団地域防災指導員
- 〒520-0106 大津市唐崎1-20-28 mail@narinari.net

また、特別支援学校の子どもたちにとってICTは、効率的な授業の実施や学力の向上、表現力を最大限に引き出すツール、周囲とのコミュニケーションを活発化するツールとなり、子どもの職業的自立や社会参加にも貢献するといえます。教育長からも、「ICT機器を活用することで子どもたちの学び方の可能性を大きく広げることが期待できる。」との答弁がありました。

加えて、闘病中の児童・生徒に対し、これまでの訪問指導だけでなく、ICT機器の活用により、病室と教室を結んだ遠隔授業を行うなど、子どもたちの学びの場は大きく向上するといえ、教育長は、「長期入院中の高校生に対しては、教室に設置をしたネットワークカメラと病室のタブレット端末をインターネットで結び、同時双方向の遠隔授業による支援が行えるよう、準備を進める」とも、「小中学校においてはICT環境整備とICTを活用した入院中の子どもたちの学習活動の充実について、市町の教育委員会とともに、検討を進めてまいりたい。」とされてました。

統合型校務支援システムの導入による効果については、「教職員の事務処理時間の短縮と超過勤務の縮減に大きな効果があり、先生方の子どもと向き合う時間の確保と、滋賀の教育の質の向上につながるもの」とし、テレワークに関しては、「本県における優秀な教職員の確保、また教職の魅力を高めるために、先行する団体の実施状況、その評価・課題をしっかりと把握するなどして、テレワークを含めた教職員の多様な働き方について研究してまいりたい。」と答弁がありました。



ナショナルサイクリングルートに認定されたピワイチの看板が唐崎に設置されました  
湯水時に現れた坂本城の湖中に残る石垣の案内看板が設置されました

## 学校のICT化について (予算特別委員会)

教育現場において、ICT環境を基盤とした先端技術や教育ビッグデータを活用することはこれまで得られなかった学びの効果がうまれるなど、**学びを変革していく大きな可能性**があるといわれています。

また今後、**遠隔オンライン教育**をはじめとする学びにおける時間・距離などの制約を取り払ったり、個別に最適で効果的な学びや支援、プロジェクト型学習を通じて創造性を育む**STEAM教育**の実現や校務の効率化、学びの知見の共有や生成をおこなったりなど、次世代の学校・教育現場において、高速大容量で、気密性の高い、安価なネットワークの整備や大型提示装置、実物投影機等の整備は不可欠であります。

- 県立学校校内通信ネットワークの整備：10億987万円
- 大型提示装置・実物投影機等の整備：1,245万円
- タブレット端末整備：3,105万円
- 教員の研修や情報教育支援員のサポート：1,570万円

- 県立中・特別支援学校(小・中)：一人一台のタブレット端末の整備
- 県立高：各校40台のタブレット端末、3台の大型提示装置等の整備
- (県立高へ5か年計画で、3クラスに1クラス分のタブレット、全ての普通教室、特別教室6部屋への大型提示装置の整備)

## 議会改革検討委員会



議会改革検討委員会が設置され、副委員長に就任しました。「議会のICT活用によるペーパーレス化の推進について」の事項が議長より諮問されました。タブレット端末等の活用も行う中で、県民にわかりやすい県議会になるよう議論をしております。

## 新型コロナウイルス感染症対策

世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威をふるっており、今後も患者は増加することを想定しながら、感染予防に努めていかなければなりません。県民の生命と健康を守り、経済への影響を最小限に抑えるため、2/26に三日月知事に、またチームしが県議団として、一斉臨時休業に対し、3/4に知事と教育長にそれぞれ要望活動を行いました。

県制度融資セーフティネット資金により中小企業の資金繰り支援や雇用の継続に努める事業者に対する国助成に対し

臨時緊急的に県単独の上乗せによる労働者の雇用維持など、県の補正予算として、19年度20年度それぞれ約3億8千万円が追加で上程され可決しました。

また観光をはじめとする経済対策等、更なる新型コロナウイルス対策の追加予算が4月下旬に予定されている県議会において計上されるように要求しております。



帰国者・接触者相談センター(平日・土日祝日 24時間)  
滋賀県業務感染症対策課 080-2470-8042

外国語での相談(平日 10:00-17:00)  
しが外国人相談センター 077-523-5646

一般電話相談(平日・土日祝日 8:30-17:15)  
滋賀県業務感染症対策課 077-528-3637

労働相談窓口(平日 8:30-17:15)  
滋賀県労働雇用政策課 080-1514-0051

県内事業者向け相談窓口(平日 8:30-17:15)  
滋賀県中小企業支援課  
総合窓口 077-528-3730  
融資制度 077-528-3732

## 社会インフラとしての地域モビリティの在り方検討

地域公共交通は、利用者の減少、運転者の減少、維持管理経費の増大等により、現状のままでは維持確保が困難な状況になってきております。交通不便地や免許非保有者の移動手段の確保、自家用車への依存等による交通渋滞の解消への対応が必要であります。

### ○新たなモビリティの導入

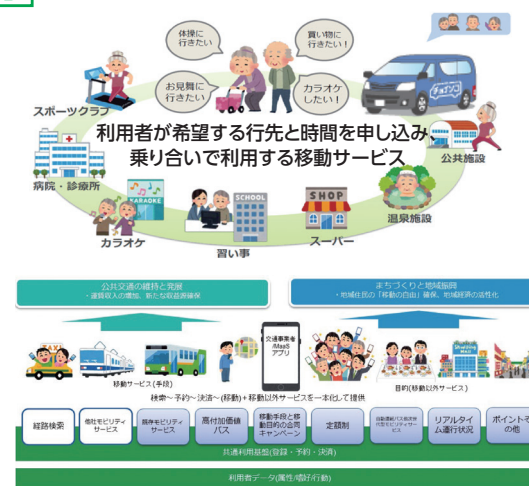
地域の移動課題に対応するため、バス、タクシー事業者、自動車業界と連携し、デマンド型交通の導入に取り組む

- ①地域の交通事業者等への運行委託を前提としたシステム
- ②健康増進を目的に、高齢者等の外出を促す「コトづくり」の推進
- ③地域密着型のエリアスポンサーの協賛によるビジネスモデル

### ○公共交通のサービス向上

公共交通サービスの向上による利用促進や外出機会の増加、支払意思を把握するため、MaaSアプリを活用した実証実験に取り組む

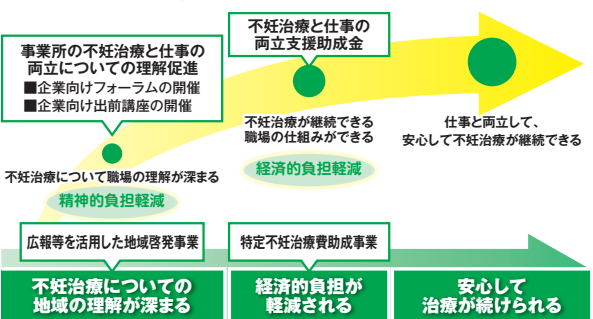
- ①公共交通、まちづくり、地域振興に資するMaaSの提供
- ②小売店・ホテル・商店街・病院などの地域事業者と公共交通が密接に連携



## 不妊治療と仕事の両立支援事業

現在、日本の夫婦5.5組に1組が不妊の検査や治療を経験しており、この割合は年々増加しております。そして、仕事をしながら、不妊治療をしている86.5%の方が「**治療と仕事の両立は困難**」と感じておられ、治療の予定がたてづらく仕事と治療の両立が困難なため、**就業者の15.8%が離職**をされておられます。また不妊治療は、身体的・精神的負担が大きく体調不良が発生することがあります。

滋賀県では、**安心して不妊治療をうけることができる職場づくり**をめざし、これまでの「経済的負担の軽減」に加えて、「県民理解の促進」「職場環境整備の支援」を行う、**不妊治療と仕事の両立支援事業**を行います。



## 骨髄等移植ドナー助成事業費補助

日本では、毎年新たに約1万人の方が、白血病などの血液疾患を発症され、**骨髄バンクを介する移植を必要とする患者は毎年2千人以上**おられます。しかし、患者の約9割以上が白血球の型(HLA型)が適合するドナー候補が見つかって、**移植を受けられる方は約6割**にとどまっています。その理由は、ドナーは移植に伴い7日間程度の通院や入院が必要のため、「仕事の都合」等により骨髄等の提供に至っておりません。

来年度より、滋賀県骨髄等移植ドナー助成事業費補助を行い、**骨髄等の提供に至るようドナー等の負担の軽減を図るために市町が行う助成事業に対し補助**を行います。

### ①ドナーに対する助成

ドナーが骨髄等を提供するために要した入院・通院・面談の日数に対して、1日あたり2万円・7日を限度に補助(県1/2、市町1/2)

### ②ドナーが勤務する事業所に対する助成

ドナーが勤務する国内の事業所が骨髄等ドナー休暇を付与した日数に対し、1日あたり1万円・7日を限度に補助(県1/2、市町1/2)

	全国	滋賀県
骨髄バンク登録者数	527,221人	6,660人
ドナー提供者数(居住地)	23,763人(累計)	286人(累計)
移植希望登録者数	1,317人	16人(累計482人)

令和元年12月末現在・日本骨髄バンク公表資料

ドナー候補者になっても提供できなかった理由

- 1位 仕事の都合43%
- 2位 家族の反対21%
- 3位 家庭の都合15%